

会 議 要 録

会 議 名		令和２年度 第１回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和２年６月２５日（木）午後１時３０分～午後３時００分
場 所		小平市中央公民館 講座室２
出席者等	委 員	１７名（欠席者 ０名）
	事務局	子ども家庭部長、教育指導担当部長、家庭支援担当課長、地域学習支援課長、生活支援課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		新型コロナウイルス感染症防止策として傍聴を中止した。
会議内容	１ 委嘱状交付 ２ 委員自己紹介 ３ 副会長の選任 ４ 開 会 ５ 議 事 令和２年度の子ども・若者に関する主な事業の概要について ６ 情報交換・意見交換 ７ その他 ８ 閉 会	
配付資料	会議次第・席次表 資料１ 小平市青少年問題協議会委員名簿 資料２ 令和２年度 子育て支援課 子ども・若者関連事業概要 資料３ 令和元年度 子ども家庭支援センター相談件数 資料４ 令和２年度 子どもの学習支援事業 資料５ 東京都子供・若者計画（第２期）の概要 資料６ 令和２年度 地域学習支援課 子ども・若者関連事業概要 青少年指導者用 人権尊重の社会 ひらく - 未来をひらく、心をひらく - 青少年育成ハンドブック ティーンズ相談室「ユッカ」 令和２年度 小平市子どもの学習支援事業 個別学習教室受講生募集 社会を明るくする運動「広がり、つながる未来の輪。」	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

１ 議事

- (１) 令和元年度の子ども・若者に関する主な事業の概要について
質疑なし

２ 情報交換・意見交換

委 員	<p>9 市を管轄する小平児童相談所管内全体の相談件数は昨年比約 10%増、うち虐待相談は昨年比約 20%増である。傾向として、心理的虐待による警察からの書類通告が増えている。件数の増加は、世帯にきょうだいがいればきょうだい全員の人数を計上している影響もある。</p> <p>一時保護は小平児童相談所管内では前年と同程度。</p> <p>児童相談所の勤務体制としては、緊急事態宣言が出されて以降、テレワークの推進や三密を避けるための時差出勤、外部会議の出席自粛等の対応を行っている。しかし、緊急性のある相談は従来通り対面の面談を実施している。</p> <p>また、保育園や学校なども休園・休校となったことで、関係機関からの情報収集が難しくなり、連携が重要であると改めて感じている。</p> <p>5 月の連休明け以降、在宅ワークをしている方からの通報が増えた印象がある。また、夜間の警察からの通報には、子どものゲーム依存による家庭内での喧嘩が増えている。</p> <p>新型コロナウイルスに感染した家庭への対応は、保健所が行う。子どもも親と一緒に病院に入れるのが精神的に安定するが、それができない場合には、児童相談所と保健所が連携して対応する。</p> <p>引き続き連携しながら感染第二波に備えていきたい。</p>
委 員	<p>小学生と高校生の子どもがいるが、休校期間中は外にも出られないのでかわいそうだった。学校が始まって友達と過ごせるようになり、すごく喜んでいる。</p> <p>この休校期間中に問題を抱えてしまった子どもたちへの対策を続けていて欲しい。また、子ども向けの行事の大半がなくなってしまっている。子どもの成長においてはすごく大切なものなので、それに代わるようなものができたら良いと思う。</p> <p>子ども家庭支援センターとティーンズ相談室への相談者は、保護者なのかそれとも本人なのか。また、性格行動相談とはどのような相談内容なのか。</p>
事務局	<p>基本的には子ども家庭支援センターへの相談は保護者から、ティーンズ相談室は本人からである。また、性格行動相談とは、子どもの発達上問題となる反抗、友達と遊べない、落ち着きがないなどの相談や、家庭内での暴力、生活習慣の逸脱等性格または行動上の問題を有する子どもに関する相談とされている。</p>
会 長	<p>相談の分類がわかりづらい。ティーンズ相談室は開設後 4 年が経過し、相談件数を見ても相談窓口として根付いてきていると感じられるため、その成果が伝わりやすいような分類や表記の仕方を今後検討してもらいたい。</p>
委 員	<p>子どもの学習支援事業の集合型会場や開催曜日、時間が昨年度からなぜ変更となったのか。</p> <p>また、参加者の個人情報への配慮はどのように行っているのか。</p>
事務局	<p>開催会場等の変更については、昨年度会場によっては参加者が少ないことがあったため、見直したところである。</p> <p>参加者の個人情報への配慮については、会場は部外者には非公開としている。また、学習がスムーズに進むように参加者同士が仲良くなれる雰囲気を作るイベントを行うことはあるが、お互いの個人情報を把握することはないようにしている。</p>
委 員	<p>地域教育コーディネーターをしているが、不登校であった子どもが、分散登校で半数登校となったことで登校できたという良い話も聞いている。</p> <p>一方で、学校や塾、習い事が一度に始まって子どもが疲れているという印象がある。また、休校中に子どもが一人で家で過ごす家庭もあったと思うの</p>

	で、子どもの様子を大人がしっかり見守っていかなければいけないと思った。
委 員	<p>休校期間中に子どもと外で過ごしていたとき、おそらく学童クラブに通っていない子どもたちが公園でお菓子を食べているのを目にし、学童に行けたらいいのと思うことがあった。</p> <p>また、市でもいろいろなイベントが中止になっているという説明があったが、例えばオンラインで画面を通じてであれば話し合うことができるし、人数にも制限がない。できるだけＩＴ環境の整備を推進し、閉塞感のある子どもたちに少しでも達成感を与えられるような機会を与えてあげたい。</p>
事務局	<p>コロナ禍においても学童クラブは継続して預かりを行っていたが、通常は下校後に預かるところを、丸一日の預かりとなり、運営上人員体制が厳しかった。</p> <p>普段学童クラブを利用しているご家庭は引き続き利用できたが、午前中のみ親がパートで働いて午後は自宅にいたので利用する必要がないようなご家庭は、休校中に午前中のパートの時間に子どもを預けたい要望もあったかもしれない。しかし、直接の要望は１件だったので、おそらく親族間での協力等も得られたのではないかと推測している。学童クラブとしても、なるべく密を避けながら工夫して運営してきた状況であり、普段利用していない子どもまで対象を広げて預かるのは難しかった。</p>
事務局	<p>オンラインでつながることは今後必要になってくると考えている。今年度は、アナログではあるが、手紙や寄せ書きなどを小平町へ送る準備をしている。ＩＣＴに関してはまだ準備が整っていないため、今回はこのような形をとっているのだが、今後はイベントを中止した場合でもそれに代わる手法を研究したいと考えている。</p>
委 員	<p>子ども家庭支援センターとティーンズ相談室の虐待相談について、それぞれの関係機関で情報を共有できれば良いと思う。端緒を拾い上げることが虐待の把握にとって大切であるため、工夫をお願いしたい。</p> <p>また、市のイベントの中止はやむを得ないとはいえ、子どもたちがイベントを通じて何かをやり遂げる達成感を味わう機会がなくなってしまうのは残念である。イベントの開催に関して、他の自治体で三密を避けるような工夫をしつつ開催しているような成功事例があれば、ぜひ取り入れてもらいたい。</p>
事務局	<p>２６市の課長会では、青少年の健全育成の今後のあり方について意見交換を予定している。そこで得られた情報があれば報告したい。</p>
委 員	<p>虐待について、近隣からの赤ちゃんの泣き声の通報でわかるということがあるが、親が自ら通報してくることはあるか。</p> <p>また、中学生や高校生の虐待はどうやってわかるのか。</p>
事務局	<p>保護者から子ども家庭支援センターに相談が入ることもある。</p>
事務局	<p>中学生、高校生の虐待は学校からの通報が多い。子どもが家に帰りたくないなどと言うことでわかるケースがある。</p>
委 員	<p>以前、虐待を受けていた高校生が交番に駆け込んだという事例を聞き、なるほどと思ったことがある。ある程度自分で行動を起こせるような年齢の子どもに対しては、いろいろな相談窓口や駆け込める場所があるということをもっと周知すると良いのではないかな。</p>
委 員	<p>青少年リーダー養成講座の開催が、現時点では９月以降になってしまうと</p>

	<p>いう話を聞いた。受講生の中には講座を居場所としているような子もいるので、オンラインでやることはできないかと考えている。今後担当課に相談していきたい。</p> <p>もう一つ、ツイッターで「こだいらフード応援プロジェクト」というものを見つけた。サイト内を見ると小平に住む学生が市内のテイクアウトを行う店を紹介するものであった。もっと知ってもらえれば、コロナ禍で影響のあった飲食店をもっと助けられると思う。</p>
委 員	<p>コロナの影響で学校の授業やサークルがオンラインになった。オンラインでは誰かが話していると気を遣ってしまい、自分が話せず、思ったことが言えなかった。私もリーダー養成講座がオンラインで何とかできないかなと考えていたのだが、自分のこの経験から、小学生と中学生がオンラインで集まってみんなで楽しくつながれるか、難しいと感じた。</p> <p>一方で、三密を避けるという行動をとる今だからこそ、できることがある。私はサークルや学校への通学にかかっていた時間を、自分の好きな事をする時間に代えることができた。オンラインで同じ時間にみんなが繋がらなくても、SNSを活用すればいつでも情報が共有できるし、自分だけの時間に好きなことをして過ごすことができる。その好きなことを見つけられるきっかけを大人が作ってあげて欲しいと思う。</p>
委 員	<p>青少年委員は、事務局からの説明にあった中止や検討中となったイベントに携わっている。青少年委員の定例会がようやく6月から再開され、各委員がいろいろな意見を持ち寄り今後の検討が始まった。</p> <p>コロナ禍で子どもたちとのつながりが切れていると実感している。それに対し、自分の立場でできることを考え、見つけていきたいと思っている。</p> <p>子どもたちに関わるいろいろな事業が今年も計画されていて、これまで通り人と接することは難しくなっていると思うが、子どもたちを見守ったり、声をかけたりといった活動は引き続き行っていきたいと思っている。市も、事業を通して、子どもたちとのつながりを持つ取り組みを継続してもらいたい。</p>
委 員	<p>このコロナ禍で、平和とは尊いものと感じた。このコロナ禍に大人が何をすべきか、子どもたちに何を教えるべきかを考えさせられた。今後の私たちの働き方なども変わっていくだろう。大人がどのようにサポートしていけば良いのかという私自身の答えを子どもたちに伝え、また、明るい未来を模索するための発信を続けていきたい。</p> <p>街中で、若者がマスクを外し、広場に集まり、密度の高い語らいをしているのを見かける。防犯安全大使として、危ないことであると注意している。地域に大人の目が必要なのだと感じるとともに、歩いて現場を見ることが大切なことかと思う。これからも小平警察署と協働し、地域の良い環境を作っていきたい。</p>
委 員	<p>主任児童委員、学校支援コーディネーターとして、地域で子どもたちを見守り育てることが、立場上大切なことだと思っている。子どもの相談に対して、考慮のうえ、その子に合った相談先を伝えている。発達障害や虐待された経験があるなどいろいろな子どもがいるが、必要だと思う子どもには子どもや周辺の支援者から自分に連絡してもらえるようにしている。</p> <p>コロナ禍であっても、子どもは家の中でじっとなどしてられないので、出歩いているのが実態である。それに対して声掛けしてあげることが大人の大切な役目である。または、近隣の子どもを庭に招き入れて遊ばせられるようなところがあれば安心だと思う。</p> <p>教育委員会でICT機器の貸し出しが始まったが、本当に必要な家庭が借りなかったり、借りる手続きもできなかったりする。このような家庭を私た</p>

	<p>ちが支援していかなければいけない。</p> <p>民生委員には新型コロナウイルスに感染した場合の保険もあり、青少年の健全育成のために進んで活動していきたい。</p>
委 員	<p>児童養護施設として100名の子どもを受け入れて生活している。3月から休校になったため、ずっと施設の中で過ごし、生活リズムが乱れてしまう子どももいた。6月から学校が始まり生活リズムが戻ったのは良いことだと思う。</p> <p>高校を卒業して大学へ進学したものの、アルバイトができなくなりアパート代が払えず、すぐに困窮してしまった子どもたちがいる。このような子どもたちのために仕組みとして整えていけるものはないか、みなさんと考えていきたい。</p>
委 員	<p>都立高校では、2月末に入試があり、それに続く形で新型コロナウイルスにより休校となり、2月末から5月末まで100日以上も休みが続いた。卒業式は保護者の参列なしで実施したが、入学式は未実施となった。現在も分散登校が継続しており、来週からようやく全校生徒が登校する。</p> <p>勉強面はオンラインの活用と課題の提出でどうにかやってきているが、子どもにとって一番の影響は学校行事や部活動がなくなったことだと思う。学校は勉強だけでなく、行事や部活動が居場所となっている子もたくさんいるので、その子たちの居場所をどう作っていったらいいのか大きな課題となっている。今後市のイベントなどで、本校の生徒がもし協力できる場面があれば生徒たちにとってもそこが居場所となり、協力することでの満足感も得られると思う。</p> <p>また、ほとんどの生徒は登校できているが、新型コロナウイルスの影響で接触を恐れたり、潔癖症などの症状で登校できない子もいる。その子どもたちの居場所も考えていきたい。</p>
委 員	<p>中学校では、この長い休み中に子どもたちがどうなってしまうのか、登校日に子どもに会うだけでは不安であったが、分散登校を経て今週から全校生徒が登校している。また、部活動なども再開し始め、少しずつ通常の学校生活に戻ってきており、子どもたちの表情も和らいできた。</p> <p>休校期間中の学習の補償などが叫ばれているが、何よりも子どもたちの心のケアを優先しないといけない。和やかな学校生活を送れるように、教員は笑顔で接して、叱ることはしていない。</p> <p>マスクをつけるという新しい生活様式に変わったことで、子どもたちに変化が出てきた。声が通りづらいことから、挨拶の際に自然と会釈をするようになった。新しい生活様式で主体的に行動できるということは、自分と他人の命を守るための生きる力だと思うので、しっかりと身につけていてもらいたい。</p>
委 員	<p>新型コロナウイルス感染拡大により在宅ワークが増えているが、小平警察署は特に変化なく、日々、交番に相談に来る人の困りごとに全力で対応している。困ったことがあったら相談してほしい。</p>

<p>委 員</p>	<p>青少対の立場から、コロナ禍での在宅期間中に子どもたちはどうしているんだろうと感じていた。大人の不在時に一人で過ごす子どもたちのために近所の人が見守ってあげないといけないと感じ、パトロールを続けていた。みんなで地域を見守っていけたら良い。</p> <p>働いている保育園で、母親たちから、在宅でずっと子どもといるのは大変であり、保育園は本当に有難いと言ってもらえた。また、父親も在宅勤務となり、子どもと接する時間が増え、子どもの様子もよくわかるようになったと聞き、良いこともあるんだと感じた。</p>
<p>会 長</p>	<p>各委員の立場からさまざまな貴重なご意見をいただいたが、どのご意見からも新型コロナウイルスによる影響は子どもたちにとって大変大きなものであったと感じる。子どもたちの未来のために、この状況が良い方向に向かっていけると良いと思う。</p>